

## 創業8年目、建設・交流とも深化と広がり

～《真の受益者は日本の子どもたち》をめざして～

12年度の建設予定は過去最高の24校、これは企業・団体・篤志家の方々から10校ものご支援をいただいたことに依ります。アジアの現地では建設校を中心に村がまとまり始め、コーヒープロジェクトなどの自立支援事業も稼働を始めました。国内ではAEFAの特長である出前授業は51回実施、のべ176回となりました。また現地NGOを招聘しての地域フォーラム、先生方による国際理解教育研究会の開催…。AEFAの事業展開は一步一步、深まり広がりつつあります。一層のご支援ご協力をお願いいたします。

### 建設ご支援に広がり

2005年にタイ・ソップワック村(カレン族)に第1校を建設以来、支援校合計は147校となります。建設資金は、創業当初はすべて日本財団様の助成でしたが、徐々に企業・団体・篤志家のご支援が増え、今年度は10校(内5校は篤志家)のご厚意をいただきました。ご支援理由の第一が《学校建設・住民参加・国際交流》という3層建構成にもとづくAEFAの理念・活動を評価いただいたもので、スタッフへのなによりの励みとなっています。

### 国内外で重要会議開催

2011年度、二つの重要な会議・フォーラムを開催しました。

一つは、海外NGO6か国スタッフによるミーティングです。互に理念・活動・意見を活発に交換し、今後への有意義な示唆が得られました(詳細:右掲)。

二つは、社団法人東京倶楽部様の助成をいただき、先生の現地派遣・海外NGO代表らの招聘と出前授業及び地域フォーラム、そしてその集約としての総括フォーラム(国際理解教育及び交流研究会)の開催です。

これは、出前授業や地域フォーラムに準備段階から協力、共催して下さった先生方が東京に参集。国際理解教育と交流の目指すところから、未来を担う子どもたちに真に何を伝えるべきかが熱心に発言、討議され、その方向感を「AEFAの思い」としてまとめました(詳細:2～3頁)。

### 教育委員会後援などAEFAの認知広がる

上記の地域フォーラムは開催地の東京都武蔵村山市・

### ●NGO代表6か国ミーティング開催●

#### 新しい取り組みが実現

2月5日～9日、ラオス国パクセーで、学校建設や教員養成など教育に関するNGOの国際ミーティングを日本財団・AEFA共催で行いました。AEFAのベトナム、ラオス、タイの各パートナーNGO、日本財団のミャンマー学校建設及びカンボジアの師範学校教員養成プロジェクトから、6か国25人が参加。各団体が活動や成果を発表し、お互いの経験と知識を共有することができました。また、師範学校の視察や、山岳地域のパチュドン小中学校、ブオンナム小中学校を訪問し、先生、村人との話し合いで、学校を中心に村がいかに発展してきたかを実感しました。

参加者は、お互いのプロジェクトに活かせるアドバイスや意見を活発に交換。カンボジアの教員がタイの山岳地域の学校を視



察する、ラオスの学校でカンボジアの英語教材を活かせるのではないかと、など新たな可能性が相乗効果として生まれ、大変盛り多い4日間となりました。

三重県津市の教育委員会から後援をいただき、市内への広がりも期待されています。また、NHK、朝日新聞などの全国メディアに紹介されました(7頁)。

AEFAの活動が、教育界で、そして全国メディアを通して多くの方に共感をいただいたことに励まされました。今後も、AEFAはアジアの山岳地帯や僻村で教育を待つ子どもたち、そして学校を共に創っている村人や先生方の声をお伝えしていきます。

### AEFAの3層建理念



### ひとこと

#### 二つの水源：先生の使命感とNGOの熱き心

AEFA事業活動8年目が始まった。活動の原点を再確認する二つの機会があった。

一つは、東京での総括フォーラム研究会で国際理解教育とAEFAの役割が議論され、得られた結論は「子どもたちにのちの尊さを伝える」である。

二つは、ラオスにおける関係NGOミーティング。6か国・7つのNGOが集い事業活動報告と共に、理念と仕組みを議論し合い、切磋琢磨の場とした。

国内外のメンバーとの語り合いの中に、吐露された熱き思いこそが大きな成果でもあった。無私

の心で日々の活動に情熱を注いでいる仲間の熱き思いと言葉が、我々の胸の底まで流れ込んで心を満してくれた。そこには共通する「志」があった。これこそがAEFAの原点であると再確認できた。

AEFAを潤す二つの水源を確認した。「先生たちが持つ使命感とNGOの熱き心」である。この二つを大きな水源にして、AEFAは川の役目を果たそう。この二つの水源は決して涸れないのだから。

(理事長 谷川 洋)

2011年10月24日、ラオス・パートナーNGOよりノンさん、ニャイさんが来日。福島県・東京都・三重県において地域フォーラムと出前授業を行い、日本の子どもたちに気づきと感動を与えました。

◆ノンさん、ニャイさんのメッセージ◆

ノン：「ラオスの山の中の村には学校に行けない子どもたちがいます。読み書きもできないため、だまされたり安い給料で働かされたり。だから私たちはその子たちのために学校をつくりたいのです」

ニャイ：「みなさんは、こんなに立派な学校で、毎日勉強できて、とても幸せですね。どうか一所懸命勉強してください。自分のためだけでなく、誰かのために役立つように。みなさんが勉強したことが役に立って、周りの人の笑顔が増えたら、とてもうれしいと思いませんか？」

ノン：「みなさんは携帯やゲームを持っていますね。」

「では、悲しい時、さびしい時、あなたの気持ちをわかってくれる携帯やゲームを持っている人はいますか？」

「そうです。機械には、心がありません。あなたの気持ちがわかるのは、あなたの家族や友だち、先生たちなのです。日本はとても技術の進んだ国ですが、どうか機械だけに頼るのではなく、周りの人から、たくさん学んでください。そして周りの人とのふれあいを大切にしてくださいね。」

◆子どもたちの感想◆

●「ワンコイン・スクールプロジェクトでお金の貴重さ、ありがたさを感じました。正直学校へ行きたくない日も何度もあったけど、行きたいのに行けない子どもが沢山いる事を知って、しっかり行こうと思いました。ラオスの子どもたちにはずかしくないように学校で色々なことを学んでこれからに生かそうと思います。」

●「学校の大切さを知り、これからは今まで以上に勉強やスポーツをがんばりたいです。お金もむだ使いしないように気をつけたいと思います。」

\*

ノンさん、ニャイさんを迎えて実施した出前授業・フォーラム関連は、東京都武蔵村山市・三重県津市の各教育委員会の後援をいただきました。

●ラオスNGO代表・スタッフ プロフィール●

ブアラベ・チュンタボンさん(ノンさん)  
OVC代表。医師。治療も大事だが、その前の予防がより大切…との信念から、保健衛生をはじめ青少年教育・農業技術指導、村人の自立支援を献身的に。孤児7人を養子として育てる。「ノーベル賞に推薦する女性1000人」にもノミネート。



チャンタラ・ブッタボンさん(ニャイさん)  
ロシアの大学に留学し会計学を修める。銀行勤めの予定が、海外NGOの活動に参加したことから、この道こそが天命と知る。あたたかな人柄で村人に寄り添って活動し、OVCスタッフにとってもお母さんのような存在。人助けが生きがい。

◆武蔵村山フォーラム／国際理解教育研究会◆

2011年10月28日、東京都武蔵村山市第五校区(二小、八小、十小)の5、6年生、500人参加によりフォーラム「ラオスの子どもたちに学ぶ」を開催。



ワンコイン・スクールプロジェクトの活動や成果を活発に発表。またフォーラム後、先生方を中心に研究集会を実施。保護者も加わり家庭での取り組みも真剣に意見交換されました。

◆AEFA FORUM IN TSU／国際理解教育研究会◆

2011年10月31日、津市一身田小・中、高野尾小、南が丘小より先生方が参加。交流事例や授業実践の発表後、意見交換。ノンさん、ニャイさんの出前授業も大好評でした。また、高野尾小ではキャリア教育の一環として三重



大学と共同で「会社をつくろう」を実施しており、その中にAEFA交流(ラオス支援)もとりいれられています。

各校の出前授業風景



福島県伊達市富野小学校



福島県伊達市小国小学校



福島県飯館村飯館中学校



福島県飯館村草野・飯種・白石小学校



福島県矢祭町東館小学校



東京都武蔵村山市第八小学校



東京都武蔵村山市第十小学校



東京都武蔵村山市第二小学校



三重県津市一身田中学校



三重県津市高野尾小学校



三重県津市南が丘小学校



三重県津市一身田小学校

教育現場の第一線で活躍する先生方と討議を重ねて、アジアとの交流の意義について、「AEFAの思い」をまとめました。志を同じくする先生方と共に、さらに交流の輪を広め・深め、この「思い」を実践していきます。



昨年4月に先生の現地派遣からスタートした今回のフォーラム。一連(福井県・福島県・東京都武蔵村山市・三重県津市)の出前授業や研究協議会を通し、各地域で中心となられた先生方に集っていただき、総括を行いました(12月26日／東京)。

アジアの子どもたちとの交流を通じ、日本の子どもたちが自分のいのちの大切さ、いのちの輝きを感じ、理解する。なぜ学校に行くのか、なぜ勉強するのか、何のために生きるのか。幼いながらも自分なりの答えを自ら見出すための学びの一助たるべく、AEFAは子ども一人ひとりの心に思いやりの心を育て、自発的・内発的な活動ができるよう、現場の先生方と共に考え、協働していきます。

### 「いのちの教育」、そして「絆」「貢献」

早稲田大学大学院教職研究科教授 菅野 静二

今後、国民みんなが目指していくものは、「一人ひとりが持っているいのちの役割」と思います。自己有用感の中でいのちの役割を果たしていける社会を教育でつくっていかねばなりません。(略)

「絆」と「貢献」を今後の教育が担うキーワードとして、「人類の役に立つ子どもを育てあげること」をめざして、先生方と頑張っていきたいと思います。

### 【スピーカーの先生方】

(順不同:敬称略/11年12月現在)

菅野 静二 早稲田大学大学院教職研究科教授

菊地 修治 宮城県仙台市広瀬小学校前校長

穴戸 仙助 福島県伊達市富野小学校校長

榊 尚信 東京都武蔵村山市第十小学校校長

牧 一彦 東京都武蔵村山市第八小学校校長

松本 盛博 福井県坂井市平章小学校元校長

青木 信益 福井県坂井市三国北小学校校長

田中 彌 三重県津市元教育長

森田 正美 三重県津市南が丘小学校校長

杉本 一久 三重県津市高野尾小学校校長

(岩坂 幸美 宮崎県日南市細田中学校教諭)

●司会/亀井善太郎 東京財団研究員兼政策プロデューサー

### ●AEFAの思い●

将来の日本、世界をつくっていく子どもたちが

アジアとの交流を通じ、いのちの尊さ、生き抜く大切さを学び人のために役立つ人となる教育に貢献します。

いわき市復興こいのぼり出前授業

### “みんなのおかげでがんばれる”

福島県教育委員会より後援をいただき、震災後アジアから届いた応援メッセージを紹介する出前授業を実施。1月25～26日に、いわき市小川小学校・赤井小学校を訪問しました。ベトナム・ラオスの友だちだけでなく、日本中から寄せられた思いを紹介。児童の皆さんの真剣な瞳と熱心な表情に、AEFAスタッフも、思わず心が震えました。

出前授業後、お返しのメッセージを黒い真鯉に全員で寄せ書きました。

そして子どもたちはこの真鯉を、「いってらっしゃい!」とまるで友だちのように送り出してくれました。約200名の熱いメッセージがこめられた復興こいのぼりは、2月にラオスに届けられ、3月はベトナムで、各校を巡回しました。

このこいのぼりは、仙台市澤村範子様から寄贈されたものです。黒・赤・青の3匹のうち青い子鯉は、ワンコイン・スクール第1号ポンタン小の校庭で泳いでいます。



また寄せ書きと共に「わたしの夢」を題に作文も書きました。

「ぼくの夢は世界を元気にするという仕事をしたいこと。」

### ●真鯉に託されたお返しメッセージ●

- ・これからも笑顔でがんばります。つらい事があってもいっしょにがんばりましょう。
- ・ラオス、ベトナムのみなさん。つらいことがあってもがんばっていればいつかいいことがあります。がんばってください。
- ・私たちは原ばつでひなんしているけど、みなさんのメッセージのおかげでがんばれる気がします。これからもおうえんお願いします。
- ・みなさんの思いが僕たちにとって大きな力になりました。ありがとう!!
- ・メッセージありがとうございます。私たちもこれからもがんばっていきたくと思っています。互いに助け合っていきましょう。私たちは大切な仲間です!

「地球のことや世界のことを勉強して世界の人の役にたてるような仕事をしてみたい。」

震災に遭いながらも、それでもなお世界の人たちのことを思い、周りを笑顔にする役に立ちたいと、自分の夢を語る児童たち。応援のメッセージをお届けするつもりが、みなさんの言葉や姿から、こちらが熱い思いと元気をいただきました。

(コーディネーター 金子 恵美)

# ●2011年度● 21校を建設しました。

## トピックス

### Phuu Kafe アカ族からの贈り物

アイエ・コーヒープロジェクト(イトアンド様ご支援)

標高の高い山奥の村で大切に育てられた赤いコーヒー豆は、遠く旅を続け、そしてあなたのカップの中で香ばしく薫る黒い飲み物となる。

タイ北部の古都チェンマイから車で4時間、標高1000mを超える山間部に位置するアカ族の村アイエ。2010年にはイトアンド様ご支援で学校が建設され、その後村人の自立支援のためのコーヒープロジェクトが行われています。

村は国立自然公園内に位置し、森林伐採や畑の開墾などに多くの規制がありますが、コーヒーの木は果樹や森林の木々の間に植えられるため、この地域での森林保護政策に従いながら植えることができます。今では3万本のコーヒーの木が栽培されています。

コーヒー豆のピーリングマシンをご支援いただいたことにより、3日かかっていた作業が2時間に短縮。村人が試行錯誤しながら改良を重ねて“Phuu Kafe”ができました。

Phuuとはタイ語では山を意味する“Phuukhao”を、アカ族の言葉では村落を意味しています。Phuu kafeには、コーヒーを通して自分たちの村を紹介したいという村人たちの願



丹精こめて育てた赤いコーヒーチェリー  
ご支援いただいたマシンで作業する村人たち

いがこめられています。

このプロジェクトが軌道にのることにより、村人の生活が向上・安定し、天然資源の保護活動にもより良い効果がみられると考えられています。青年リーダーを中心に、学校建設後も道路やグラウンドの整備、集会場の設置など、村人がひとつにまとまってきました。今後も村人の気持ちに寄り添い、その自立を見守っていきたいと思います。

(コーディネーター 楠山 紀子)

このコーヒープロジェクトが無事稼動しましたこと、非常に嬉しく思っております。この活動が、アイエ村のみならず村周辺エリアの発展にもつながっていければ幸いです。また今後、コーヒーの名産地としてアイエ村が発展すること、そしてそのコーヒーによって、村人の皆さんが弊社と一緒に「美味しい」という幸せをより多くの人に提供していただくことを心より願っております。 【ご支援者様より】

## ●2011年度建設校(小学校)●

( )内はご支援者/敬称略



ベトナム  
ダクサオ・ナンニョ第2分校  
(日本財団)



ベトナム  
ダクサオ・ナンロン第3分校  
(日本財団)



ベトナム  
ダックロン・コンヒア第1分校  
(日本財団)



ベトナム  
ダクトカン・ダックpron分校  
(日本財団)



ベトナム  
バンレム・テペン分校  
(日本財団)



ベトナム  
ゲンクエン・ダックラオロン分校  
(日本財団)



ベトナム  
レバンタム・ダックカンペン分校  
(日本財団)



ベトナム  
ダンチャンコン・コンニョカー分校  
(日本財団)



ベトナム  
ゲンフーカイン・ブレインール分校  
(日本財団)



ベトナム  
ダックログ・ダックコン分校  
(日本財団)



ベトナム  
ゲンヒエン・ミーソン分校  
(株)エコロインターナショナル



ベトナム  
カオファ・リムモン分校  
(日本財団)

# ●2012年度● 24校を建設します。

## ●2012年度建設校●

	小学校名	(分校名)	国名	民族	児童数	教室・設備	支援者(敬称略)
1	ダックロオン	ゴックナン2	ベトナム	セダン族	271	5教室+WC+井戸	日本財団
2	ダクハ	ダクハ	ベトナム	セダン族	54	3教室+WC+井戸	日本財団
3	ルホンフォン	ダックルン	ベトナム	セダン族	104	3教室+WC+井戸	アースバンク倶楽部
4	キムドン	ダックリゾップ	ベトナム	ロンガオ族	159	3教室+WC+井戸	日本財団
5	ダックチャム	ダックドリン	ベトナム	セダン族	88	3教室+WC+井戸	日本財団
6	ゴックトウ	ダックトン	ベトナム	セダン族	103	2教室	剣持 昭司(日本財団「夢の貯金箱」)
7	キムドン	クラウゴルゴー	ベトナム	ジャライ族	250	5教室+WC+井戸	日本財団
8	ドアンティディエム	ヤンロオン	ベトナム	バナ族	153	3教室+WC+井戸	日本財団
9	ホアタン	第5	ベトナム	キン族	75	3教室+WC+井戸	日本財団
10	ホアンホアタム	タム・ミー西	ベトナム	キン族	68	3教室+WC+井戸	日本財団
11	クエラム2	第4	ベトナム	キン族	146	5教室+WC+井戸	日本財団
12	レバンタム	第2	ベトナム	キン族	108	5教室+WC+井戸	日本財団
13	ルオンテーヴィン		ベトナム	キン族	639	5教室	坂東真理子
14	チェウティチン	タンアン	ベトナム	キン族	398	4教室	株式会社サンキューホールディングス
15	クオイハウ	クオイハウ	ベトナム	ヌン族	52	3教室+WC+井戸	日本財団
16	ラパンタン	チョンパアサン	ベトナム	モン族	486	3教室+WC+井戸	日本財団
17	チエンマイ	コーサウ	ベトナム	タイー族	60	3教室+WC+井戸	日本財団
18	チエンケオ	ブオット	ベトナム	タイー族	50	3.5教室+WC+井戸	日本財団
19	ビエンカム		ラオス	スワイ族・タオイ族	137	5教室+WC+井戸	神崎敏彦
20	マークナオ(中学校)		ラオス	イン族	215	5教室+教員室	棚橋賢治
21	パチュドン(幼稚園)		ラオス	タオイ族	50	1.5教室	セカンド・オピニオン株式会社
22	フォーサイ		ラオス	低地ラオ族	187	校舎修理	国際学校建設支援協会
23	ヴァンブアイ(中学校)		ラオス	スワイ族	342	5教室+教員室	ダイリキ株式会社
24	ラック33		ラオス	アラック族・低地ラオ族	55	4教室+教員室	肥後良輔



**ベトナム**  
ボティサウ・アンタイ分校  
(日本財団)



**ベトナム**  
ボティサウ・アンタイ幼稚園  
(日本財団)



**ベトナム**  
カダイタピン中学校  
(日本財団)



**ベトナム**  
スアंकアン・ゴアンA分校  
(日本財団)



**ラオス**  
チャンヌア  
(ワンコイン・スクール2校目)



**ラオス**  
ブオンナム中学校  
(S・Y様〔日本財団「夢の貯金箱」〕)



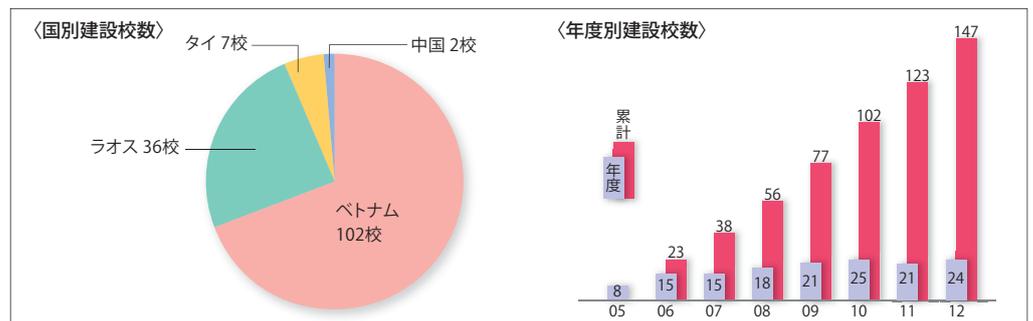
**ラオス**  
カニョンケクナイ  
(株)近江兄弟社



**ラオス**  
ノントム  
(株)ブロードウェイ



**ラオス**  
フォーサイ中学校  
(株)ディアーズ・ブレイン



# AEFAが先駆…ベトナム中部高原に学校続々

ベトナム戦争の激戦地で戦痕深い中部高原では2000年に少数民族の差別・貧困問題が顕在化し、長い間海外NGOの進出が許可されていませんでした。AEFAが2007年に認可されたのは世界で初めて。AEFAが先駆となって、以降、続々と学校が建てられ教育環境が整備されています。

## ◆海外支援のパイオニアとして◆

ベトナムの中部高原は、AEFAが日本財団と共に集中して学校建設を行っている地域です。

ラオス、カンボジアの国境に接し、ベトナム戦争では激戦地となったこの地域は、戦後も少数民族の暴動が度々おこり、インフラ整備が遅れていました。政治的理由からも海外のNGOの支援が入りにくい状況でしたが、この中部高原のコントゥム省、ダックラック省、そしてクアンナム省の山岳地域で2007年に学校建設を認められ、この地域の海外支援のパイオニアとして建設を展開しています。

(2011年までにAEFAは中部高原で62校、今年度は12校を建設します。)

この地域の土地は痩せて高地であるため、農業・牧畜には適さず、タピオカの原料となるキャッサバが収穫できるのみです。山間部では食料の調達がままならないため、子どもたちも十分に食べる事ができません。

学校も不足しており、掘っ立て小屋程度のものや、ホンハウスという村の集会所を間借りして教室として使っているような状況でした。

## ◆クラスター制度による教育環境整備◆

AEFAの建設は、本校、分校からなる学校群をまとめて整備するクラスター制度を取り入れ、展開しています。ベトナムでは地区毎に中心となる本校があり、そして各村に分校があります。小学校1-3年は近くの分校に、4-5年生になると遠く離れた本校に通います。学校群をまとめて整備し、地域の教育環境を整えるという建設のモデルを作ってきました。

また、AEFAプロジェクトでは建設した分校が本校に昇格されたり、AEFA支援をきっかけに、建設した学校に地方行政の追加支援が入り、先生が増え、教材が充実するなど学校の整備が進んでいるところもあり、行政の理解、協力も深まってきています。

## ●ベトナムの熱血先生●

AEFAはゴックトゥウで4校、ポコで3校を建設。基幹校を中心に村がまとまり始め、クラスター制度の成果が評価される両地区の熱血先生にお話をうかがいました。



### ◆ゴックトゥウ小 デイン校長先生

「自立できる子、自分自身で養える子」を目指して教育を行っています。セダン族の子どもたちは学習意欲も高いので、新しい学校で毎日生懸命勉強しています。また、親の教育に対する意識も高く、学校を整備するために物質的・精神的な支援をしてくれます。学校が単に建物としての存在ではなく、村の中心となり精神的な支えとなっています。」

子どもたちに、平等に学べる環境を整えてあげたいというデイン先生。本校・分校ともに整い、先生の熱血指導のもと地域全体の教育環境が改善されています。

## ●“交流の部屋”から●

### ◆チューオレン小◆

“交流の部屋”の壁には東京都高輪台小から届いた絵や手紙がたくさん!「子どもたちと一緒に壁に貼って、みんなで楽しく眺めています」と先生方。十分な画材もないので、日本への絵を描く時には先生たちで少しずつお金を出し合い画材を購入。「日本のお友だちに届けたい」という思いで交流に取り組んでくださっています。



交流の部屋にて：左から校長先生、副校長先生、交流担当の先生と交流作品



### ◆ルホンフォン小コンダオ分校◆

素敵な絵の額縁はカレンダーの再利用。少ない資源を工夫した作品が福井県三国北小に届きました。

今年は寮の建設も始まります。これにより遠方の子どもたちが通学できるようになります。

## ◆就学率がめざましく改善◆

かつては、森の中になんでも食べ物があつたのが、2005年頃からゴム林が増え、結果として森が荒れ、教育がなければ、字がわからなければ、生きていけなくなってきました。このような必要性もあり、AEFAが建設をしてから、就学率がめざましく改善されてきています。

\*

この地域は2009年の台風で甚大な被害を受け学校や家が流されました。未だ傷跡が残る大変な暮らしの中、東日本大震災の際には心からの応援メッセージや寄付をいただきました。

(チーフコーディネーター 佐藤 佳子)

### ◆ポコ小学校 フン校長先生

「新しい校舎ができ、子どもだけでなく親・村人みんなが喜んでいいます」とフン先生。靴もきちんと揃えられており、勉強だけでなく生活面でもフン先生の熱心なご指導が伺えました。分校の先生たちも互に交流し、スキルの向上に努めています。学校建設後、通学する児童が増え就学率が高まるなど、ポコ小学区でも教育環境の改善がみられます。



トゥゾップ1分校/新校舎(下)が出来るまで勉強した竹編みの旧校舎と奥のホンハウス

分校名	児童数変化
ダクモハム	27→32
トゥゾップ1	50→62
トゥゾップ2	53→73

# ご支援者のお気持ちで…ラオス開校式

列席のご支援者の皆さまが「子どもたちを中心に」と工夫を凝らし手作り感あふれる交流会をプレゼント。ラオスの子どもたちにとって、日本から見守ってくださる皆さまの存在と、きらきら輝く晴れの日の思い出は、一生心に残ることでしょう。（コーディネーター 金子 恵美）

## カニョンカクナイ小学校開校式

●(株)近江兄弟社様・ニコニコ募金様ご支援●

2月11日、山村徹社長、今回で3回目のラオス訪問となる辻昌宏取締役他計4名の皆さまをお迎えし、開校式を開催。同社の創業90周年を記念して支援された、出来たばかりの二重屋根の校舎は、コーヒー畑の緑を背に清々しい佇まい。山村社長より「皆さんが成長をするために、この新しい校舎で一所懸命に勉強をし、そして、大きくなったら家族のために、村のために役に立てる人になって下さい。」とのご挨拶がありました。同社では村の産業振興・発展のためのコーヒープロジェクトを、継続してご支援くださっています。

村人手作りのランチを児童と輪になりいただいた後、運動

会が行われました。子どもたちは初めて綱引き・玉入れ・リレーに挑戦、青空の下元気な歓声が響きました。最後に、同社社員の皆様が一つ一つ手作りしたメダルを子どもたち全員の首にかけ、再会を約束しました。



手作りのメダルを手にみんな笑顔で



山村社長(左)より副教育局長に学校の鍵を贈呈

## ラオガム小学校開校式

●中西重敏様、東野光男様、岡村一様、横関一伸様、田村恵様ご支援●

「一生に一度位は世の為、人の為になることを・・・」との思いから、東海大OB会での再会がご縁となり、地域の基幹校であるラオガム小新校舎及び遊具、教材をご支援いただきました。昨年11月17日、中西様ご夫妻、東野様、岡村様参列のもと開校式を開催。中西様の「昨日より今日、今日より明日をよくしていこう」とのメッセージは、参列者の胸に響きました。準備いただいた手作り竹とんぼ、折り紙、ペーゴマ、綱引きで児童と交流しました。



## ノントゥム小学校開校式

●(株)ブロードウェイ様ご支援●



「国の発展は次代を担う子供たちの教育から始まる」とのお考えから、これまでもノントゥムに井戸、教材、先生の給与をご支援いただいています。子どもの数がとても多く、教室に入りきれない現状から、同社創立10周年を記念して追加新校舎を寄贈。子ども全員が村の学校で学べるようになりました。「ラオスをみんなの力で今まで以上のすてきな国にしてください」とのメッセージが贈られると、村人たちは「責任をもって学校を運営管理します。」と決意を語りました。

## フォーサイ中学校開校式

●株式会社アース・ブレイン/NPO法人Shared Smile Japan様ご支援●

これまで5年間5カ国に学校建設をご支援。今年AEFAを通し、フォーサイ村で初となる中学校をご支援いただきました。近隣5カ村からも生徒が通う、地域の基幹校です。開校式では、小岸社長から「ラオスの発展と日本の友好のために活躍してください」とご挨拶。交流会では準備を重ね、よさこいソーラン、しっぽとり、玉入れの運動会を実施。しっかりと手をつなぎあい、お別れの時間には、泣き出す子どもたち。心の架け橋もしっかりとかかりました。



## ドンチャイ中学校開校式

●福島県相馬郡飯館村様ご支援●

2月12日、開校式に寄せて菅野典雄村長から「飯館村からは、中学校校舎と“までい”という言葉を贈ります」とのメッセージを、菅野クニ教育委員が代読。斎藤博史副主査ら参列者全員で、飯館村民歌「夢大らかに」を合唱しました。飯館中学生が復興への思いを詠んだ短歌も紹介。ドンチャイ中からも、「100万回ありがとう」「私たちの兄弟姉妹である飯館の皆さんのそばにいたい」「皆さんは災害に立ち向かい、十分闘ってこられました。お身体を心配しています。」との返信と、村の歴史を手作り絵本にまとめ、贈呈しました。

「今日は、単なる開校式ではありません。日本に祈りを届ける日です。」とのラオガム郡教育長カムライ氏の言葉通り、式典の後には手作りの竹灯籠500本に生徒らがろうそくを灯し、満天の星のもと、日本へ復興と再生の祈りを捧げました。

朝日 2.29



NHK 2.13

# ご支援、ご協力ありがとうございます。

## AEFA 2011

●2011.1～2012.3●

### ◆2011

- 1月●ラオス・ピアラー小開校式(30日)
- 2月●ラオス・ノンヤオ中開校式(28日)
- 3月●第4期AEFA定時総会(29日)
- 4月●ベトナム・フトゥーC小開校式(29日)
  - 教師の現地派遣:東京都武蔵村山市第十小榊校長、同第八小牧校長、ベトナム・ラオスを視察・交流(現地の子どもたちが日本の被災地に応援メッセージを寄せた復興こいのぼりを託す)
- 5月●武蔵村山市持田教育長より福島県遠藤教育長に復興こいのぼり贈呈(26日)
  - (その復興こいのぼりは日本の交流小学校を巡回)
  - タイ・アイエ小贈呈式(26日)
- 7月●ベトナムのパートナー NGO「VNAH/HealthED」トラン代表を招聘。福井・東京の7校で出前授業。
  - ちくぬいボランティアグループによるラオス手織布の小物をチャリティ販売。売上をラオス支援に。

- 8月●谷川理事長、文部科学省研修会でAEFA活動を講演、4年連続(13日)
  - 9月●ベトナム・グエンヒエン小開校式(3日)
  - 10月●ラオスのパートナー NGO「OVC」ノン代表、ニヤいさん招聘。福島・武蔵村山・津の12校で出前授業。
    - AEFAフォーラム・国際理解教育研究会を武蔵村山市(28日)、津市(30日)で。
  - 11月●ラオス・フォーサイ中(15日)、ラオガム小(17日)、ノントウム小(19日)開校式
    - 「福島県飯館村菅野典雄村長の話の聞か会」共催(20日)
  - 12月●総括フォーラム・東京研究集会、「AEFAの思い」をまとめる(26日)
- ◆2012
- 2月●NGO6か国ミーティング(6日)
    - ラオス・カニョンケクナイ小開校式(11日)、ドンニヤイ中開校式(12日)
  - 3月●第5期AEFA定時総会(29日)

●出前授業実績(51回)●

AEFAのもう一つの特長の出前授業はこの間、51回を実施。06年に初めて行って以来、のべ176回実施し、授業対象児童・生徒数は1万2千人を超えました。

## ◆トピックス◆

### ◆奨学生2期生はラオスパチュドン中初の卒業生

AEFA奨学生2期生は、同校初となる卒業生の中から7名が選ばれました。

ブンリツ君は家畜の世話や家事、農作業のため、小学校入学は11歳でした。19歳の今、ふるさとのタイオ郡カジャーム村の教員となるため、師範学校で日々勉学にいそしんでいます。



### ◆キッコーマン館でAEFAグッズ常設展示、販売

㈱キッコーマン様のご厚意により、4月から千葉県野田市の同社「もの知りしょうゆ館」(年間来館者10万人)にて、ラオス手織布を用いてちくぬいボランティアの皆さんが手作りした小物の常設展示及び販売が始まります。

また同社からも15名の社員の方がちくぬいボランティアとしてご協力くださいます。

## ●ご支援一覧(2011.10～2012.3)

(敬称略)

	支援者	支援先・内容	
I. 学校建設支援	セカンド・オピニオン株式会社	ラオス パチュドン幼稚園	1.5教室
	国際学校建設支援協会	ラオス フォーサイ小学校	校舎改築
	ダイリキ株式会社	ラオス ヴァンプアイ中学校	5教室+教員室
	アースバンク倶楽部	ベトナム ルホンフォン小学校ダックルン分校	3教室+WC+井戸
	勲持 昭司(日本財団「夢の貯金箱」)	ベトナム ゴックトゥウ小学校ダックトン分校	2教室
	坂東 眞理子	ベトナム ルオンテーヴィン小学校	5教室
	株式会社サンキューホールディングス	ベトナム チェウティチン小学校タンアン分校	4教室
II. ソフト支援	長野篠ノ井ライオンズクラブ	ラオス トンコー小学校	事務所 兼 教師宿舍
	株式会社近江兄弟社		
	村上 俊雄/匿名希望(S.T.)	ラオス ドンニヤイ中学校	教科書と図書セット
	福島南ロータリークラブ/楽動整体/中川 千恵子/山崎 登喜/津金 睦子/内田 安子/太田 謙輔/キュービー株式会社	ラオス 師範学校生徒の奨学金	飯館村の支援中断(震災のため)による建設資金に充当
III. 交流等	石塚 貞紀・富美代	ラオス ティーチャーズファンド	卒業後、ふるさとの帰る「おらが村」の先生をめざすラオス山岳僻村の青年を支援
	廣部 武/木村 敬道/俵木 妙子/今浦 文志/河原 正巳/穴戸 仙助/井村 哲郎	フレンドシップ交流資金に充当	先生の給与・研修・図書など

\*2012年度は日本財団様よりベトナムで14校の支援をいただいております。

(敬称略)

## ボランティアのみなさま

いつもありがとうございます。

青木 文子  
熊木 満喜  
石塚都美子  
小垣外明子  
笠原 寛子  
五嶋 礼子  
加藤 祐子  
斎 里美  
門真なみはや高校  
さつき里香  
神澤 優花  
佐藤 裕  
キッコーマンの皆様  
柴野 直樹  
ゲンティ ホンフォン  
GYPSY QUEEN  
ゲンティピックヴァン  
杉崎くに子  
工藤 卓二  
鈴木 博康

染谷 和美  
福田 澄繪  
高井 愛  
増田 郁子  
高橋 正子  
三浦 航  
田宮 雅子  
三上 正芳、由紀  
デール ストロンバーグ  
箭内 克俊  
中島 邦子  
山下 直子  
中森 朋子  
横瀬 定且  
長原 歩・紀子  
横田 一馬  
成島志帆子  
吉村 彩  
錦織 香  
若井 淳子  
八戸 敬  
渡辺 智子

## 賛助会員、寄附によるご支援を

### ●賛助会員としてのご支援●

アジア教育友好協会では、アジアの子どもたちに対する教育支援や、日本の子どもたちとの国際交流を支援して下さる賛助会員の方を募集しています。

### <賛助会費(年間)>

- ・個人 5,000円
- ・法人 30,000円

### <新入会のみなさん>

上崎 明彦 黒川 忠司  
小林 弘英 小松 光恵  
谷川 昭子(㈱サンキューホールディングス)

### ●寄附によるご支援●

AEFAは「認定NPO法人」のため、ご寄附は昨年度の税法改正により、税額控除が導入され従来より大幅に還付されます。確定申告により2,000円を超える分の寄附金の40%相当額が所得税から引かれます。(税額控除と所得控除の有利な方を選べます。)

認定NPO法人 **アジア教育友好協会 AEFA(アエファ)**  
Asian Education and Friendship Association



本 部:〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

TEL 03(6426)0720/FAX 03(6426)0721

Email: asia@nippon-aeffa.org URL: http://www.nippon-aeffa.org ブログ: http://blog.canpan.info/aeffa/